

研究 主題	文学的な文章における語彙を豊かにする指導 ー タブレットを利用した文章ブックの作成と活用を通して ー
----------	---

第3学年 国語科学習指導案（略案）

指導月日 令和元年11月5日（火）

所属校名 登米市立東郷小学校

氏名 佐々木 幸恵

1 単元名 中心となる人物の気持ちや様子の変化をカードにまとめよう モチモチの木（東京書籍 「新しい国語3下」）

2 児童の実態〔第3学年1組 男・11名 女・13名 計・24名〕

第3学年の児童は、国語の学習への興味・関心が高く、学習態度も真面目で、どの児童も国語の学習に意欲的に取り組んでいる。

児童は、これまでの文学的な文章の学習を通して、文章ブックで語句の意味を確認したり、短文づくりや連作文づくりに取り組んだりしてきたことで、教科書教材については、人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目し、人物の気持ちを考えたり、文章に書いたりすることができるようになってきた。また、大切な語句と似た意味の言葉と比較し、語句の持つ意味について考えることで、人物の心情について深く考えることもできるようになってきている。

しかし、語句を使用語彙として活用することについては、個人差も大きく、短文づくりや連作文づくりで、使用語彙が増えた児童も多くいたが、なかなか使用語彙までに至らない児童もいる。また、初見の文章を読むことにおいては、場面と場面のつながりを考えながら人物の心情を考えたり、語句の意味を考えながら深く心情を読み取ったり、人物の言動や心情の変化について、考えたことを自分の言葉で表現したりすることに課題のある児童も多い。

3 研究主題との関連

(1) 文学的な文章における語彙を豊かにする指導

中心となる人物の気持ちや様子の変化を読み取るためには、語句の意味を理解し、表現の工夫にも着目することが重要である。そこで、語句一覧表の語句を短文カードにまとめたものと、文学的な文章で用いられてい表現と児童が日常使う表現を比較し、短文カードにまとめたものを集約した文章ブックを作成する活動を行う。児童は、場面の読み取りに入る前に、この活動を行うことで、語句や表現の工夫について考える機会となる。また、理解語彙を増やし、語句から受ける印象の違いを感じ取ることによって語彙が豊かになり、さらに、人物の心情について深く考えることにもつながっていくと考えている。

(2) 短文カード及び文章ブックの作成

語句一覧表の語句を6グループに2つずつ分担し、本単元の第2時に短文づくりに取り組ませる。グループで作った短文カードは、全員で見合ったり読み合ったりすることで、理解語彙を増やすようにする。また、「モチモチの木」では、擬人法や表現の工夫されている文と表現を言い換えた文を比較して、文から受ける印象について発表させることで、語彙を豊かにしながら、場面を読み取る学習につながるようにする。

児童が作成した短文カードは、教師がタブレットに集約し、文章ブックを完成する。

(3) 文章ブックの活用

場面ごとの読み取りの際には、登場人物の様子や行動を表す語句の意味を確認する場合に、教師が文章ブックを活用し、児童に提示する。また、擬人法や表現の工夫されている文については、文章ブックを作成させる際に比較した文を提示したり、その文について考えさせたりし、人物の心情を考え

る手助けとする。さらに、人物の心情を読み取った後に、表現に込められた人物の思いを短文カードに記入し、修正することで、語から受ける印象の違いについても自分の言葉で書けるようにする。

4 単元の指導と評価の計画（※別紙）（10時間扱い 本時：4/10）

5 本時の計画

(1) 本時の目標

昼と夜の豆太の気持ちや様子の変化を捉えることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕

(2) 本時の指導に当たって

本時では、文章ブック語句の意味を確認したり、文章ブック作成の際に提示した文を発表させたりすることで、豆太の心情を深く理解し、豆太の変化についての確に捉えられるようにする。

導入では、課題を提示した後に、昼の変化について児童に問い、小見出しにもある「やい木い」の部分に豆太の変化があることを簡単に押さえ、音読では、豆太の変化に関わるモチモチの木の様子について考えながら音読するよう話す。

展開では、はじめに、モチモチの木の名前の由来について確認する。次に、モチモチの木の恵みである実からもちにして食べた時の感想の言葉である「ほっぺたが落ちる」に着目させ、「おいしい」と比較することで、語から受ける印象を感じ取らせ、モチモチの木に投げ掛ける言葉を児童に考えさせる。そして、豆太の言動と対比させ、「やい木い、モチモチの木い！実い落とせえ！」といばってさいそくする豆太について深く考えさせ、昼と夜との違いについて捉えられるようにする。これらの活動は人物の心情を深く考えることはもちろん、語や文から受ける感じ方の違いに気付くことで語彙を豊かにしていくことにもつながると考える。展開後半では、「木がおこって」の表現に着目させ、木が怒っているように見えた豆太の気持ちについて考えさせる。

終末では、昼と夜の豆太の気持ちや様子の変化について自分でまとめさせ、自分の感想も付け加えさせることで、第三次の活動につながっていくようにする。

(3) 指導過程（※別紙）

(4) 本時の評価

「やい木い、モチモチの木い！実落とせえ！」や「木がおこって」の表現について豆太の心情と結び付けて考え、昼と夜の豆太の様子や気持ちの変化について捉えることができたか。

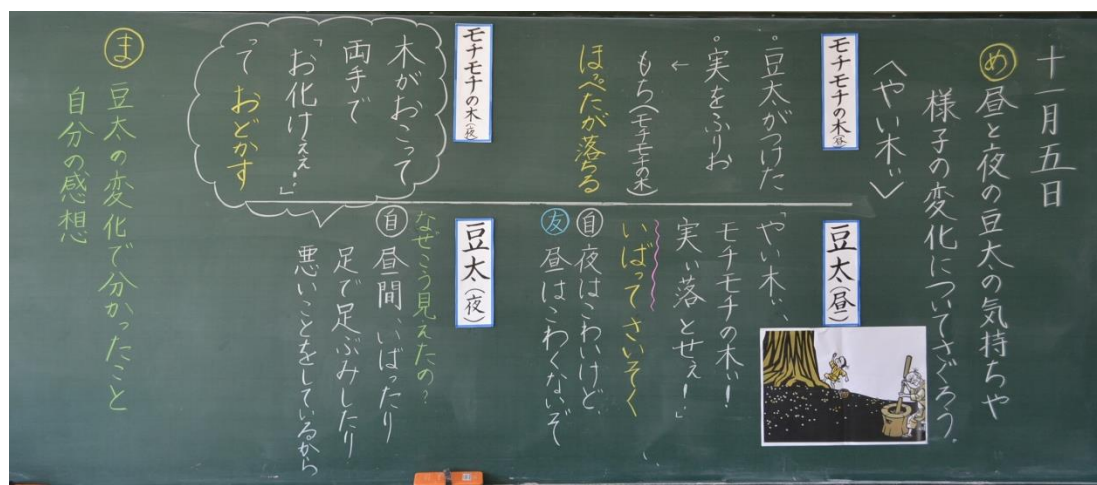
〔思考・判断・表現〕

(5) 準備物

教師：単元計画表、タブレット

児童：ノート、筆記用具

(6) 板書計画



4 単元の指導と評価の計画(10 時間扱い 本時4/10)

次	時	主な学習活動	評価基準	文章ブック②の活用 語句一覧表の語句(・)表現の工夫された文(○)
第一次	1	○全文通読し、モチモチの木についての初発の感想を書く。 ○学習計画を知り、学習の見通しを持つ。	○物語を読むことに興味を持ち、感想を考えようとしている。	
第二次	2	○グループごとに意味調べと短文づくりに取り組み、短文カードを作成する。 ○文章ブック②の比較文について考える。	○新出漢字や慣用句について知り、短文を作ることができる。	・ほっぺたが落ちる。 ・歯をくいしばる。
	3	○モチモチの木と豆太の人物像について考える。 ○「大きなモチモチの木がつつ立って・・」の表現から、モチモチの木に対する豆太の思いを考える。	○モチモチの木と豆太の人物像から、豆太のモチモチの木に対する思いを捉えている。	・おくびょう。 ・きもをひやす。 ○大きなモチモチの木がつつ立っていて、空いっぱいのかみの毛をバサバサとふるって、両手を「ワッツ！」とあげる。
	4 ・ 本時	○豆太の言動やモチモチの木の見え方から、昼と夜の様子の違いについて考える。	○「やい木い、モチモチの木い！実落とせえ！」や「木がおこって」の表現に込められた豆太の思いを考え、昼と夜の豆太の様子や気持ちの変化について捉えている。	・ほっぺたが落ちこちる。 ○「やい木い、モチモチの木い！実落とせえ！」 ・いばる。・さいそく。 ○木がおこって、両手で、「お化けええ！」って上からおどかすんだ。 ・みっともない。・しゃがむ。
	5	○「霜月二十日」を読み、霜月二十日のモチモチの木に対する豆太の思いを考える。	○昼間、だったら、見てえなあ・・・に込められたモチモチの木への豆太の思いの変化を捉えている。	・勇気。
	6	○「豆太は見た」を読み、医者様を呼びに行く豆太の様子とモチモチの木に灯がついた様子を見た豆太の思いを考える。	○表現の工夫を理解し、医者様を呼びに向かう豆太の様子について捉えている。 ○「モチモチの木に灯がついている！」と言った豆太の気持ちを捉えている。	・歯をくいしばる。 ○しもが足にかみついた。
第三次	7	○「弱虫でもやさしけりゃ」を読み、じさまの考える豆太と今の豆太について考える。	○じさまの会話文と最後の三文を比較して、豆太についてまとめ、自分の感想を持つことができる。	・勇気。 ・弱虫。
	8 ・ 9	○物語を通して、豆太がどのように変化したかを変化カードにまとめる。	○「おくびょう豆太と勇気のある豆太」「昼の豆太と夜の豆太」について、自分の感想を加えてまとめている。	☆上記に示す語句や文
	10	○変化カードを読み合い、感想を伝え合う。 ○文章ブックの修正・追加を行う。	○感想の交流を通して、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。 ○表現の違いによる感じ方の違いに気付くことができる。	

(3) 指導過程（本時 4/10）

段階	学習活動 ○主な発問及び指示・予想される児童の反応	形態	・指導上の留意点 *評価（評価方法）
導入 6分	1 本時の課題を知る。 昼と夜の豆太の気持ちや様子の変化についてさぐろう ○豆太が変化しているはどこですか。 ・「やい木い」といばってさいそくしているところ。	一斉	・一の場面「おくびょう豆太」での豆太のモチモチの木への思いを確認する。 ・学習計画表で本時の学習を確認する。 ・学習の流れを板書に示し、本時の学習の見通しを持たせる。 ・豆太の変化については、児童も気付いているので、豆太の変化に関わるモチモチの木の変化を考えながら読むよう話す。
展開 30分	2 「やい木い」を一斉音読する。 3 モチモチの木について捉える。 ○モチモチの木はどんな木ですか。 ・豆太が名付けた。 ・秋に、実をいっぱい振り落としてくれる。 4 「やい木い、モチモチの木い！実い落とせえ！」の表現から、昼と夜の様子の違いを捉える。 (1) ほっぺたが落ちるほどの実を落としてくれるモチモチの木に、どのように話し掛けるか考える。 ○ほっぺたが落ちるほどの実を振り落としてくれるモチモチの木に、どのような声を掛けますか。 ・ねえ木いモチモチの木い！いっぱい実を落としてね。（いっぱい実を落としてくれてありがとう。） ・おうい木モチモチの木い！実を落としてちょうだい。 (2) 豆太の昼の言動について考える。 「やい木い、モチモチの木い！実い落とせえ！」と、片足で足踏みして、いばってさいそくしたりする豆太はなぜこのようなことを言ったり、したりしたのだろう。ノートに自分の考えを書きましょう。 ・夜はこわいけど昼間のモチモチの木はこわくないぞ。 ・昼間はこわくないからふざけた気持ちで言っている。（5歳児である幼さ。拗音の「い」の表現等から。）	個別 ・ 一斉	・音読が苦手な児童には、本を机に置いて指迫いで読ませ、語句をしっかりと捉えながら読ませる。 ・モチモチの木の名前の由来について考えさせる。 ・ほっぺたが落ちるについては、「おいしい」と意味の違いについて確認し、語感を豊かにする。 ・モチモチの木へ優しく声を掛ける様子について発表させることで、豆太の言動と対比させ、「やい木い、モチモチの木い！実落とせえ！」の文に込められている豆太の思いを深く考えることができるようにする。 ・「いばる」「さいそく」の意味を確認することで、豆太の行動を理解させる。 ・「いばる」「さいそく」の意味をしっかりとと言えない場合は、教師が文章ブックをテレビに提示し、意味を押さえる。 〈文章ブックの活用〉 ・自分の考えを表現できない児童にはおくびょう豆太ではなく、○○豆太に変わったのかを考えさせる。 ・夜の豆太と対比させることで昼の豆太はモチモチの木をこわがっていないことを押さえる。 ・自力解決後、フリートークで交流し、自分の考えを発表させ、自分の考えとの共通点や相違点に気付かせる。

	(3) 夜のモチモチの木と豆太の様子を捉える。 ○豆太には、夜のモチモチの木は、どのように見えていますか。 - 木がおこって、両手で、「お化けええ！」って、上からおどかすように見える。 どうして、豆太の目にモチモチの木がおこっているように見えたのだろう。自分の考えをノートに書きましょう。 - 昼間、モチモチの木に意地悪をしたから、おこられているように見えた。 - 昼間の行動がよくないから。 - 昼間、ふざけて悪いことをしたから、おこられているように見える。 ○豆太の夜の様子は変化しているか。 - していない。 - しょんべんが出なくなる豆太。		「おどかす」の意味を確認する。 「木がおこって」の表現に着目することで昼間の自分の行いを怒られているように感じている豆太の思いに気付かせる。 - 昼間の豆太と夜の豆太の違いを対比できるよう板書を工夫する。 - 夜になるとおくびょう豆太に戻ることを押さえる。 ※「やい木い、モチモチの木い！実落とせえ！」や「木がおこって」の表現に込められた豆太の思いを考え、昼と夜の豆太の様子や気持ちの変化について捉えることができたか。 (発表・ノート)
終 末 9 分	5 本時の学習を振り返る。 (1) 昼と夜の豆太の変化について分かったことと、自分は思うか、感想をノートに書き発表する。 (2) 次時の学習について確認する。	個別 ・ 一斉	- 豆太の気持ちや様子が表れている語句や文を入れて、自分の感想を書くように話す。 - 感想を書けない児童には、豆太が5歳であることや自分が5歳だった時を考えさせながら書かせるようにする。 - 意図的指名で数名の児童に発表させる。 - 学習計画表を見ながら、次時の学習について確認する。